ぽつぽ屋

輸送サービス労組 東京支部
2024.8.13
NO.010

“いのち”を守る！
鉄道業の専門性を重視した人間力・現場力が蓄積された「鉄道人」の自覚と責任ある行動を実践し、社会から信頼される安全な鉄道を実現する8・12集会

輸送サービス労組は8月12日、『“いのち”を守る！鉄道業の専門性を重視した人間力・現場力が蓄積された「鉄道人」の自覚と責任ある行動を実践し、社会から信頼される安全な鉄道を実現する8・12集会』を北とぴあで開催し、400名に迫る仲間が結集しました。JR 東日本は「変革2027」でモビリティ部門と生活ソリューション部門の割合を7:3から5:5に展開していくと打ち出して以降、急速に利益優先・安全軽視の姿勢が随所に現れています。過去には「日本航空」「JR 西日本」どちらの会社も企業理念に利益優先を掲げ、安全を蔑ろにした過度な効率化施策をおこなった結果「日航ジャンボ機墜落事故」「福知山線脱線転覆事故」という歴史上類を見ない大事故が発生しています。まさに今の JR 東日本はその直前にあるといっても過言ではありません。私たち輸送サービス労組はお客さまと組合員その家族を不幸にさせないため今後もお客さまから信頼と信用される鉄道会社をつくりだしていきます！

集会アピール

もはやＪＲ東日本会社は「警鐘」を聞くことすらできないのか。
毎日のように同じような事故・事象が形を変え繰り返し発生している。これまでの対策が活かされているのか、仕事の本質が理解されているのか、疑問を呼ぶものばかりだ。

新型コロナウイルス感染症が拡大し、経営は赤字へ転落した。会社は「10年、時が早まった」とし、「変革」「黒字必達」「よりお客さまに近いところでの発意発想」を合言葉に「業務の変革」「組織再編」「融合と連携」など労働の機械化を強力に推し進めてきた。その裏では労組破壊、輸送サービス労組を敵視し人権を否定する「新たなジョブローテーション施策」で「強制配置転換」を進め、鉄道の専門性が失われつつある。実態調査からは、ＪＲ東日本として安全な鉄道をお客さまに提供できる施策ではないこと、そして社員・家族の幸福の実現に資するものではないことが明らかになった。安全な鉄道を走らせ続けるためには、エキスパートの責任可能な職場と人材育成・教育体制の確立が求められている。自己申告書に基づく面談での申告を無視し本人の意向を尊重せず、安全性・専門性・人間性を蔑ろにする「新たなジョブローテーション施策」の撤動は即刻撤廃すべきである。

39年前の今日、日本航空123便の墜落事故が発生し、520名もの尊い命が一瞬で奪われた。当時の日本航空は利益優先・効率化、組合分裂工作に躍起になり、労働組合に所属する社員を左遷させるなどの人事運用を行っていた。御巣鷹山での事故以降、経営資源を安全投資に集中させていたが、2010年の経営破綻を機に利益優先の方針に転換した。国土交通省は今年の5月、日本航空に対し航空機の翼が欠損する事故などのトラブルが相次いで発生していることから報告徴収を行った。相次ぐトラブルの要因は、利益優先に舵を切った結果であることが報道等で指摘されている。ＪＲ東日本においても「感電」や「墜落」によるパートナー会社作業員の死亡事故、急下した架線に新幹線が衝撃、東北新幹線郡山駅での470mの大幅遅延、東北本線の設切無遅延ダイヤでの約束遅延、除雪作業中などの相次ぐ特急遅延、線路内施作業中の汽笛吹鳴など、事故・事象が後を絶たない。ＪＲ東日本会社が打ち出す再発防止の対策は、現場で一切機能せず、発生した事故・事象に対する責任を社員に押し付けている姿からも「グループ安全計画２０２８」のテーマである「本質を踏まえ想定外も想像し安全を先取る」ことはできるはずもなく、絵に描いた餅であると言わざるを得ない。

首都圏において長編成ワンマン運転の実施が確実されている。私たち輸送サービス労組は、短・中編成ワンマン運転線区で発生している問題点の解決なく、安全性・サービスレベルが低下する長編成ワンマン運転開始は認められない。会社は、申 38 号「ワンマン運転実施における諸課題の解決を求める申し入れ」の団体交渉で、私たちの指摘に対して、ワンマン運転により発生している事故・事象は「運転士の不注意によるもの」とし、直接的な原因にのみ問題を切り縮め、事故・事象が発生した要因に由らず「ワンマン運転になったから発生した事象ではない」との回答に終始する姿勢を貫いている。この経営姿勢は、鉄道会社として安全に対する責任放棄であり、ＪＲ東日本の安全マネジメントの問題である。私たちは「今職場で出ることは何か」「優先するべきことは何か」を考え行動し、私たちの運動で安全な鉄道を提供し続けよう。

鉄道の最大の使命は安全だ。安全とは自分自身のみならず、利用者・仲間・家族の“いのち”を守り抜くことである。ＪＲ東日本を変うる声は内外問わず悲痛な声として連日届けられている。しかし受いているだけでは現状を変えることはできない。黙っていることは否定的な現状を認めることと同じだ。「組織再編」「融合と連携」「みどりの窓口の閉鎖」などの施策によって要員が大幅に削減され、長時間を問わず超過勤務・休日出勤の増加で職場は疲弊している。さらに、人の心を壊す「新たなジョブローテーション施策」によって仕事に対するモチベーションが大きく低下している。ビジネスと人権を重視し、社員が安心して働ける職場環境、賃金・労働条件は安全な鉄道輸送を提供するためには何よりも重要である。今こそすべての仲間と共に声をあげ、施策に向き合い課題解決に向けて行動する時だ。今あるお仕事を遂行し、地域と社会から信頼され必要とされるＪＲ東日本であり続けるために、鉄道の安全性を再構立しよう。そのためには人間力・現場力の蓄積、鉄道人の自覚と責任を持ち、立ち向かわなくてはならない。そして、真の実践と注意あふれる職場を取り戻すために組織の強化・拡大を実現しようではないか。

２０２４年８月１２日

“いのち”を守る！鉄道業の専門性を重視した人間力・現場力が蓄積された
「鉄道人」の自覚と責任ある行動を実践し、社会から信頼される
安全な鉄道を実現する８・１２集会